

# 第9期の介護サービス基盤整備について ～居住系サービスの状況～

【中長期的な地域の人口動態やサービス需要を踏まえたサービス基盤の整備について】

- 第9期計画においては、中長期的な人口動態等を踏まえたサービス需要の見込みや生産年齢人口の動向を踏まえ、施設サービス、居住系サービス、地域密着型サービスをバランス良く組み合わせて整備することが重要。

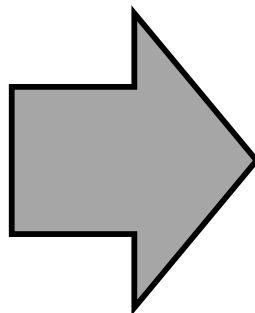
## 住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅について

- 令和3年3月31日時点では、市内の住宅型有料老人ホームの定員数は199人、サービス付き高齢者向け住宅の定員数は483人だったが、現時点では、住宅型有料老人ホームは59人増の258人、サービス付き高齢者向け住宅は257人増の740人となっている。

### 第7期介護保険事業計画終了時 (R3.3.31時点)

住宅型有料老人ホーム  
定員199人

サービス付き高齢者向け住宅  
定員483人



### 現時点 (R5.7.1時点)

住宅型有料老人ホーム  
定員258人

サービス付き高齢者向け住宅  
定員740人

## 住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅について

- 市内住宅型有料老人ホーム5施設(／6施設)を調査したところ、要介護3～5の入居者が109人だったが、特養への入所が適切との回答は3人だった。
- 市内サービス付き高齢者向け住宅15施設(／21施設)を調査したところ、要介護3～5の入居者が223人だったが、特養への入居が適切との回答は15人だった。

### 住宅型有料老人ホーム(5施設)

要介護度	人数
要介護1	39人
要介護2	36人
要介護3	31人
要介護4	46人
要介護5	32人
合計	184人
(要介護3～5)	109人

施設が特養への入所が適切と考える方 **3人**

施設が特養以外の施設への入所が適切と考える方 **0人**

※全入居者190人の内

### サービス付き高齢者向け住宅(15施設)

要介護度	人数
要介護1	88人
要介護2	101人
要介護3	88人
要介護4	91人
要介護5	44人
合計	412人
(要介護3～5)	223人

施設が特養への入所が適切と考える方 **15人**

施設が特養以外の施設への入所が適切と考える方 **12人**

※全入居者450人の内

## 特定施設入居者生活介護・認知症対応型共同生活介護について

- 市内特定施設入居者生活介護及び認知症対応型共同生活介護の定員数を、他の中核市と比較したところ、どちらのサービスも川越市は他の中核市より少なかった。

居住系サービスの定員数(a)

	川越	前橋	高崎	越谷	柏	横須賀
特定施設入居者生活介護	734	920	1,606	1,718	1,100	1,705
認知症対応型共同生活介護	432	522	765	411	513	765

定員(床)

※川越市の定員数は令和5年7月時点の予定。川越市以外は第8期計画に記載された数。

認定者数(b)

	川越	前橋	高崎	越谷	柏	横須賀
認定者数(b)	16,957	17,961	18,135	14,943	19,194	24,203

人

※認定者数は、厚生労働省HP介護保険事業状況報告(暫定版)令和5年3月分より。

認定者1万人あたりの定員数(a) ÷ (b) × 10,000

	川越	前橋	高崎	越谷	柏	横須賀
特定施設入居者生活介護	432.8	512.2	885.5	1,149.7	573.0	704.4
認知症対応型共同生活介護	254.7	290.6	421.8	275.0	267.2	316.0

定員(床) / 認定者10,000人

※特定施設入居者生活介護: 指定を受けた有料老人ホームなどで、日常生活上の介護や、機能訓練などを行う介護保険サービス

※認知症対応型共同生活介護: 認知症の高齢者に対し、家庭的な環境と地域との交流の下、日常生活上の介護や、機能訓練などを行う介護保険サービス

# 特定施設入居者生活介護・認知症対応型共同生活介護について

- 市内特定施設入居者生活介護を調査したところ、入居率は91.6%、非常に不足している、やや不足していると回答した施設は3施設だった。
- 市内認知症対応型共同生活介護20施設(／21施設)を調査したところ、入居率は96.9%、やや不足していると回答した施設は7施設だった。

## 特定施設入居者生活介護

回答施設	13施設	(全13施設の内)
定員	673人	
入居者	586人	
入居率	91.6%	(令和5年開設を除く)
待機者	26人	
退去者	185人	(昨年度1年間)

## 認知症対応型共同生活介護

回答施設	20施設	(全21施設の内)
定員	360人	
入居者	349人	
入居率	96.9%	
待機者	21人	
退去者	83人	(昨年度1年間)

施設が特養への入居が適切と考える方	7人
-------------------	----

施設が特養への入居が適切と考える方	13人
-------------------	-----

特定施設が非常に不足していると感じる	2施設
特定施設がやや不足していると感じる	1施設
特定施設の量が丁度良いと感じる	7施設
特定施設がやや多いと感じる	2施設
特定施設が非常に多いと感じる	
わからない	1施設

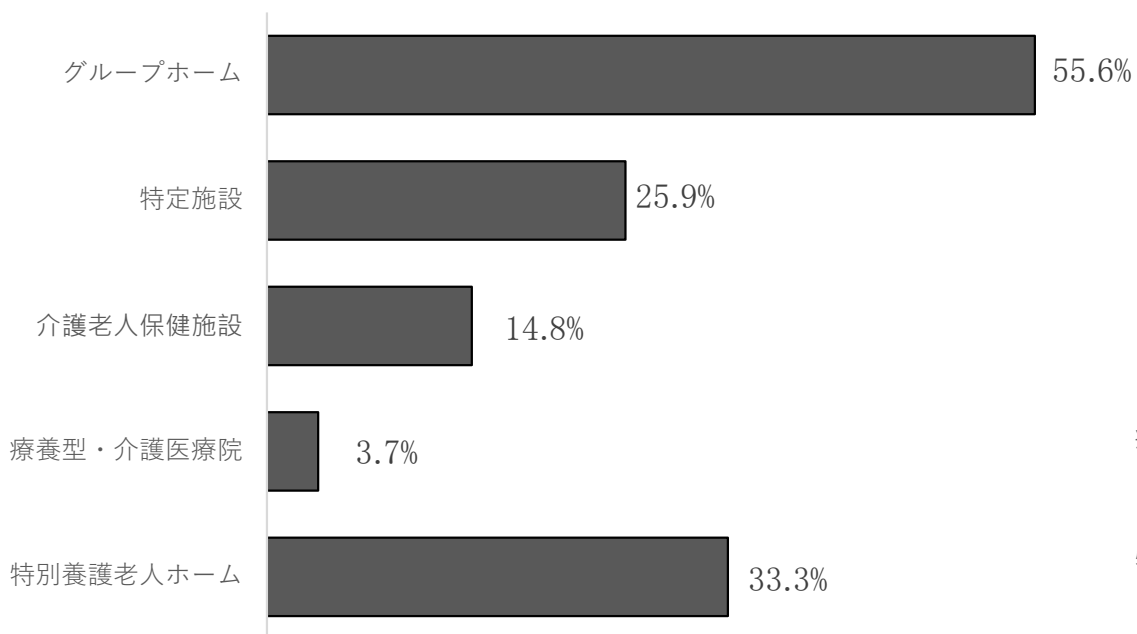
GHが非常に不足していると感じる	
GHがやや不足していると感じる	7施設
GHの量が丁度良いと感じる	7施設
GHがやや多いと感じる	1施設
GHが非常に多いと感じる	
不足しているが、課題がある	5施設

※GH＝グループホーム・認知症対応型共同生活介護

## 生活の改善に必要なサービス変更と在宅認定者の2年後の療養場所の比較 【要介護2以下】

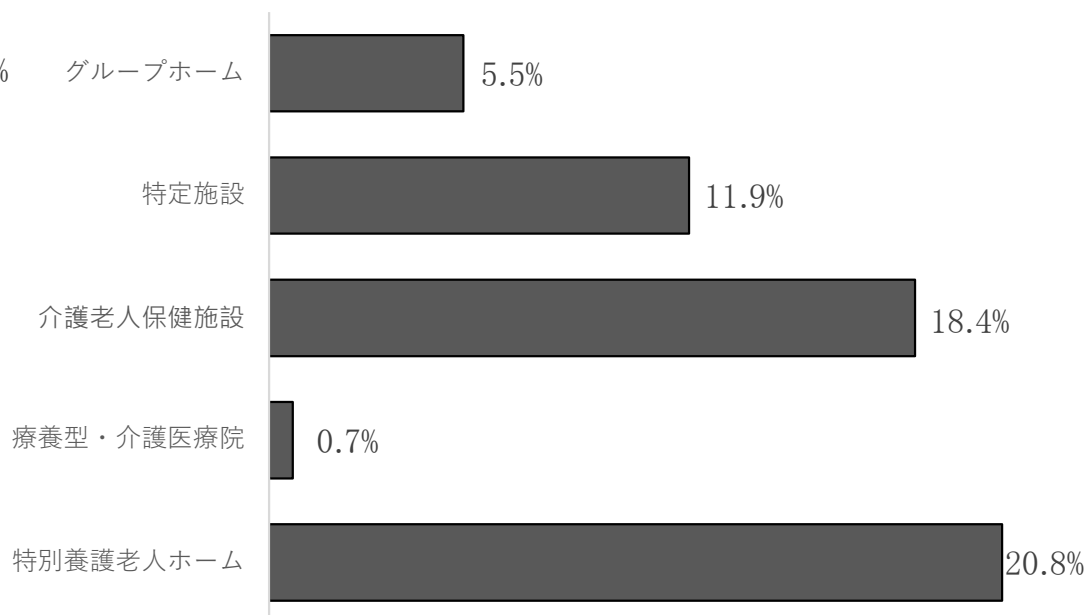
- ケアマネジャーが考える生活改善に必要なサービスは、グループホームが多く回答されているが、実際に在宅から施設等へ療養場所を移した人は、グループホームが少なかった。

生活の改善に必要なサービス（特養or特養以外の施設等の待機者）  
【要介護2以下】複数回答



在宅認定者の2年後の療養場所【要介護2以下】

※在宅継続・サービス未使用を除く

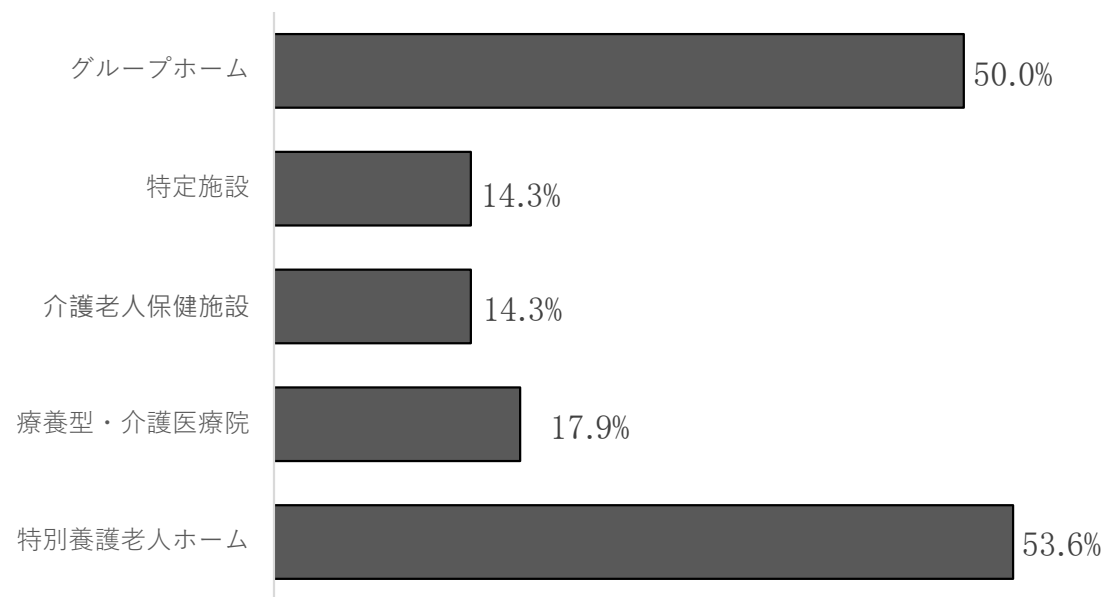


出所:令和4年 第4回審議会 川越委員作成資料から一部抜粋  
サービス名称は比較のため調整

## 生活の改善に必要なサービス変更と在宅認定者の2年後の療養場所の比較 【要介護3以上】

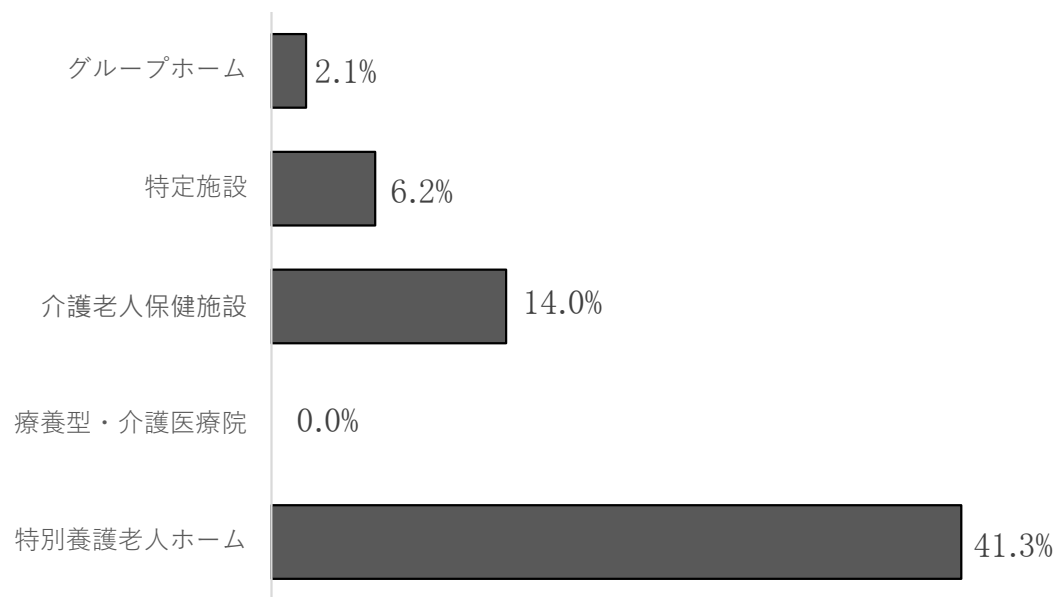
- ケアマネジャーが考える生活改善に必要なサービスは、特養に次いでグループホームが多く回答されているが、実際に在宅から施設等へ療養場所を移した人は、グループホームが非常に少なかった。

生活の改善に必要なサービス（特養or特養以外の施設等の待機者）  
【要介護3以上】複数回答



在宅認定者の2年後の療養場所【要介護3以上】

※在宅継続・サービス未使用を除く



出所:令和4年 第4回審議会 川越委員作成資料から一部抜粋  
サービス名称は比較のため調整



# 第9期の介護サービス基盤整備について

## ○居住系サービスの現在の状況

- 市内住宅型有料老人ホーム及びサービス付き高齢者向け住宅を調査したところ、入居者のほとんどが要介護認定を受けていた。そのうち半数以上が要介護3以上の方だが、特養への入所が適切との回答は少なく、要介護者の入居場所として機能していることが分った。
- 市内の住宅型有料老人ホームの定員数は59人増の258人、サービス付き高齢者向け住宅は257人増の740人となっており、増加傾向にある。第9期の介護サービス基盤整備は、この傾向を踏まえた計画策定が必要だと考えられる。
- 市内の特定施設入居者生活介護及び認知症対応型共同生活介護は、他の中核市と比較して定員数が少なかった。
- 市内特定施設入居者生活介護を調査したところ、入居率は91.6%、市内認知症対応型共同生活介護の入居率は96.9%で、施設数が過多ではないと考えられる。
- 認知症対応型共同生活介護は、自宅を離れる方の適切な入居先として考えられているが、実際に自宅を離れた方が入居する割合が少なく、施設の不足も考え得る。